

はじめての 万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

vol.
128

忘れ草 わが紐に付く 香具山の

故りにし里を 忘れむがため

大伴 旅人 卷三(三三四番歌)

訳 忘れ草をわたしは紐につける。

なつかしい、あの香具山の故郷を忘
れようと思つて。

香具山の故りにし里

この歌は「帥大伴卿の歌五首」と題さ
れた中の四首目です。帥大伴卿とは、大
宰帥(大宰府の長官)である大伴旅人
を指します。旅人は天智四(六六五)年
の生まれで、四十六歳の時に平城京遷
都が行われるまで飛鳥・藤原の地で過
ごしていました。遷都から十七年ほど
たったころ、大宰帥に任ぜられます。

この歌は、宴の場で部下が詠んだ歌
に対する返歌の一首です。「奈良の都を
思ほすや君(奈良の都を思われますか、
あなた)」(卷三・三三〇番歌)との問い
かけに対し、奈良の都だけでなく、吉野
の川と「故郷」への思いが連作で詠まれ
ます。『万葉集』中、「故郷」は飛鳥を指
すことが多く、中でも旅人にとって望
郷の原点となるのが香具山だったので
しょう。

香具山は大和三山(香具山・畝傍山・
耳成山)の一つで、「天の香具山」とも呼
ばれます。舒明天皇の国見歌に「大和に
は群山あれどとりよろふ天の香具山」
(卷一・二番歌)とあるように、飛鳥に宮
がある時代から特別な山として詠まれ
ていました。「天降りつく天の香具山」
(卷三・二五七番歌)とも歌われ、伊予
国風土記逸文にも天から降りて来た山
だと伝わっています。ただ、今回の歌で
は「天の」がついておらず、神話的背景と
いうよりも実際の地名としての香具山
が詠まれます。藤原宮の御井の歌(卷
一・五二番歌)でも「大和の青香具山」と
詠まれ、香具山が大和の代表として認
識されていたという指摘もあります。

「忘れ草」とは萱草のことと考えら
れ、中国の書物に、萱草は憂いを忘れさ
せる、とあります(『文選』五三・養生
論)。『万葉集』に全五例あり、この歌以
外は恋の歌に用いられます。恋心と同

様、いつそ忘れたいのに忘れられない強
い懐かしさが表現されています。

天平二(七三〇)年十二月に帰京した
旅人は、翌年一月従二位となり、七月に
六十七歳で亡くなりました。香具山を
見ることはできたのでしょうか。

(本文 万葉文化館 阪口由佳)



万葉文化館の館内をご紹介



特別展示室
日本最古の鑄造銭とされる
富本銭(複製)などを展示



一般展示室(歌の広場)
万葉の世界を体感できる
展示空間



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
🌐www.manyo.jp

万葉文化館 イベント情報

◆万葉集をよむ 無料

12月4日(水) 14時〜15時30分

「夏の雄歌(3)」(巻8・1480〜1488番歌)

中本和(当館主任研究員)

「定員」150人(先着・申込不要)

※オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆万葉古代学講座 無料

12月15日(日) 14時〜15時30分

「万葉歌と楽府詩」

井上さやか(当館企画・研究係長)

「定員」150人(先着・申込不要)

※オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉 冬

1月上旬〜3月上旬